

2. 文化生活の拠点づくり、 町づくり再発見チームの立ち上げ

- ① アートによる地域活性化と
魅力創造の実践的研究

「アートによる地域活性化と魅力創造の実践的研究」

地域のアートを題材としたアートマネジメントの実践的研究

(淡路島アートプロジェクト) 2011 年度報告

桑島紳二

1. はじめに

1998年に明石海峡大橋が開通したことによって、淡路島への交通の便が飛躍的に良くなった。そして近年は、山や海といった自然に囲まれ、また都会にも近く、良好な生活環境という淡路島の魅力にひかれ、現在、多くのアーティストたちが淡路島で活動している。本研究では、「地域の芸術を題材とした持続可能なアートイベント」を行うためのアートマネジメントの方法について淡路島を対象として研究していく。2011年度は各地で開催されているアートイベントについて調査する一方、研究講演会やワークショップを開催し、運営ノウハウを蓄積した。

2. 活動概要

a. 各地で実施されたアートイベントの調査

アートイベントは、10月に集中しており、主に兵庫県内のアートイベントを調査した。現地調査では期間中にそれぞれのアートイベントに赴き、パンフレットなどの資料を収集し、展示された作品やその周辺を撮影し記録した。

b. イベントの開催

ワークショップや研究講演会を実施した。ワークショップでは、実施するにあたって、「どのような制作を行うか」、「必要な準備」、「どのように行えば参加者が楽しめるか」など、実践を通じて学んだ。一方では、なぜワークショップを行うのか、そもそもワークショップとはどういうものかなどについて、発表を行った。

研究講演会では、主にアートとは何か、とくに捉え難い現代アートについて、淡路島のアート事情などの内容で実施した。

最後に、それぞれで得た情報を別冊3の報告書『淡路島のアーティストに聞く。』にまとめ、1月18日(水)に全体での報告会を開いた。主に現地調査に行ったアートイベントの概要と改善点、参考点などをそれぞれ挙げ、まとめた。報告会を開き、淡路島でアートイベントを行う準備として、知識や情報をまとめ、共有した。

3-a. 各地で実施されたアートイベントの調査

(1) 「歌とピクニック in Tanba」 丹波市 10月8、7日（土、日）



会場は他のアートイベントと比べて自然の多い田舎だった。コンセプトは、何も無い田舎をひとつの資源と考え、新しい豊かさとして再認識し、アートとともに丹波の魅力を発掘発信し、交流しようというものである。作品には自然をそのまま利用しており、地元の野菜を使った郷土料理の店など、丹波の魅力を活かす工夫が見られた。

(2) 「神戸ビエンナーレ」 神戸市 10月1日（土）－11月23日（水・祝）



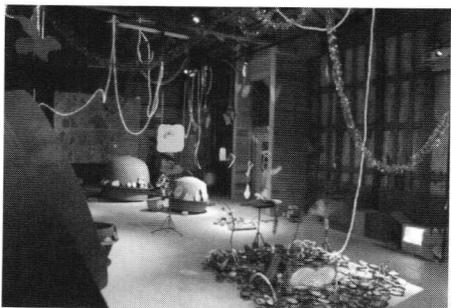
国内外からアーティストを呼び、4つの会場で作品やイベントなどが用意された。阪神・淡路大震災を経験し、また海外交易などからの独特の文化発展を果たした神戸にて、アートを通じてさらなる文化発展・交流を目指し、神戸の魅力を発信しようという目的だ。作品は、国内外の新進気鋭のアーティストたちによる展示場所の環境や素材を活かしたさまざまなジャンルで展開された。

(3) 「AMA 展－Art Meets Amagasaki」 尼崎市 11月12日（土）－11月23日（水・祝）



尼崎には多くの歴史的建造物が多く、会場となる旧尼崎警察署もその一つである。AMA 展では「廃墟からの再生」をテーマに、歴史ある廃墟を若手アーティストたちによって新たなものへ変換し、そこから「あま」の活性化につなげるという狙いだ。廃墟という重苦しさのある環境をうまく活かした展示となっていた。

(4) 「龍野アートプロジェクト」 龍野市 11月18日（金）－11月26日（土）



文化庁推進の「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」の一環として行われた。龍野がもつ文化遺産と現代アートの魅力を兼ね備えたアートイベントとなった。展示場所には古い醤油蔵などを用い、不思議な空間が作られていた。また、アーティストによるトークがあり、作品に対しての解説や制作時の苦悩などを聞くことができた。

(5) 「中之島コレクション展、世界制作の方法展、アンリ・サラ展」大阪市 国立国際美術館

10月4日(水) - 12月11日(土)



「世界制作の方法」では個性的なアーティストたちがそれぞれ異なる世界観を表現していた。作品には身近な素材が使われ、期間中に作品が変化成長するなど、全体的にいかにも現代アートという内容だった。「アンリ・サラ展」では、映像作品を中心にオブジェと写真群という構成となっており、作品をひとつひとつ見るのではなく、空間全体でサウンドとイメージに向き合える仕組みとなっていた。

3-b. イベントの開催

(1) 「淡路島のアートについて (やまぐちくにこ氏)」有瀬キャンパス 11月5日(土)



NPO 法人淡路島アートセンターの設立者であり理事を務めるやまぐちくにこさんから、NPO 法人淡路島アートセンターや淡路島のアーティストたちがどのような活動をおこなっているのかなど語っていただいた。

(参加者 12 名)

(2) 「現代アートの楽しみ方 (岸野裕人)、映画『Herb & Dorothy』上映会」有瀬キャンパス 11月17日(木)



映画上映後、倉敷市立美術館元館長である岸野裕人氏に現代アートについて語っていただいた。氏によれば、作者の意図や作品の意味などとは関係なく、作品を見たときに心に訴えかけるものが現代アートにおいて重要だということであった。鑑賞者がどのように感じ、思ったのかということが最も基本となるということであり、今後の活動において非常に有益な講演会となった。

(参加者 20 名)

(3) 「黑板ワークショップ (遠藤幹子)」 淡路島美術大学 11月23日 (水・祝)



淡路島美術大学にて、一級建築士の遠藤幹子氏によるワークショップを実施した。みんなで作る楽しさ、そしてその場がみんなのものになるということがワークショップの意義であり、ワークショップを行うことで、自ら制作し、アートを知ること自然と接し方も変わると氏は語った。(参加者 25 名)

(4) 「ミニ気球を作ろう (岡本純一)」 神戸学院大学 12月4日 (日)



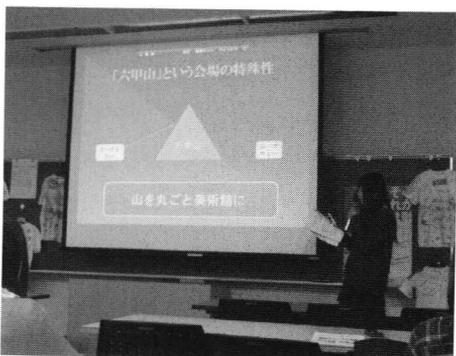
現代美術家である岡本純一氏を招き、近隣の子どもたちとともにワークショップを行った。参加者全員でひとつのものを手掛けたことでコミュニケーションが生まれ、またアートというものは決して高尚なだけでなく、みんなで作る楽しみや達成感などを得ることができるという、アートの原点のようなものを実感することができた。(参加者 45 名)

(5) 「ワークショップの理論と実践 (藤吉裕子、中村潤)」 神戸学院大学 12月17日 (土)



まず、国立国際美術館研究員の藤吉裕子氏によるワークショップの理論についての研究講演を行なった。次に、現代美術家の中村潤氏による偶然性をテーマとしたワークショップを実施した。(参加者 15 名)

「報告会」 神戸学院大学 1月18日 (水)



昨年の調査・研究の総括として、全体の報告会を開いた。各アートイベントと研究講演会について、まとめた情報を共有し、それぞれの改善点、参考点、研究成果、ポイントなどを報告した。(参加者 19 名)